

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	空飛ぶ三輪車・秋津保育所
施設所在地	東京都東村山市秋津町4-30-3
法人名	NPO法人 子ども自然探検隊 空飛ぶ三輪車

1. 活動のテーマ

<テーマ>

秋の実りを楽しむ② 自然物で造形活動(ネイチャーアート)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

秋は植物が実をつけ、人間にとっては収穫の時期である。子どもたちの身近な場所にもどんぐりなどの木の実や紅葉などの落ち葉が落ち、柿や栗などの果樹も実をつけ、その実を手にとり楽しむことができる。美しいもの、おいしいもの、不思議なものにあふれた秋の自然物(園で栽培したものなど含む)が集まったら、その素材を使って造形活動につなげることで子どもたちの自然への興味をより深く引き出したいと考える。

2. 活動スケジュール

9月～11月 素材集め 木の実、クズのつる(リースづくり原料)
園の畑、園庭の花壇で栽培した花、ひょうたん、へちま、綿等の収穫。
木の実と収穫物は随時整理と下処理を行う。

11月～12月 造形活動(何をつくりたいか、どう作るか意見を言ってから取り掛かる)
合計3回ほど。保護者に展示する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

素材集めのための籠、収納ケース。保管箱。造形(ネイチャーアート)のための段ボール、ボンド、ワイヤー、グルーガン等。ブルーシート。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日常の保育で拾い集めた木の実などの自然物を使い、造形活動につなげてゆく。材料となるものは園の畑や園庭の花壇などで栽培した花やひょうたん、へちまなどの植物、飼育したかいこの繭など多岐にわたり、一つ一つに実際に触れる中で、その不思議さや貴重さを感じて、自分はその自然物を使ってどんな作品に仕上げたいか友達とイメージを膨らませながら考えた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ①リースの材料となるクズのつるを見つけた年長男子。採集の許可された場所に行き、自分で切ろうと尖った石などを使って試行錯誤している。そのうち年下の子どもたち数人も集まって、「うんとこしょどっこいしょ」と協力して引っ張っている。つると格闘すること30分余り。子ども同士引っ張り方を工夫したりして楽しみながら取り組んでいる。「手伝ってくれたから、このつるで籠を作ったらみんなにかしてあげる」とはその男子の言葉だった。
- ②松ぼっくりでクリスマスリースの飾りが作りたいという4, 5歳児の女の子のグループがあり、絵具で色を付けたところ、園庭で遊んでいた2, 3歳の子も「一緒にやりたい!」とはりきり、日が暮れまで白い絵具を塗り、アートの材料作りに異年齢で没頭する時間となった。
- ②素材を集めたり、園庭の花を収穫しながら、「ネイチャーアートで家をつくりたい、この枝は使えるかも」「私はリースがいい」など造形を楽しみにする様子がみられた。造形は3日ほど日を分けて行い、その都度自分の作品に手を加えたり、友達と協力して一つの作品を仕上げようと相談しながらアイデアを活発に出し合い1人1人が成長した姿も見られた。

写真は3ページ目に添付

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

多くの素材を前にどの子も熱中して造形に取り組んだ。作品から見える子どもたちの内面が豊かで、発想力が優れていることを感じる。木の実や花の収穫をしている時から「こういうかたちの飾りにしたい」など素材を活用することを考えている様子が見られ、一つ一つの植物と深く繋がり、そのものを探求している様が手に取って分かった。そのようなプロセスを経て生まれた作品はどの子にとっても自分の自信作となった。保護者にも作品完成までのプロセスをしっかりと伝え喜ばれた。

空飛ぶ三輪車・秋津保育所

すくわくプログラム 2024 年度 活動報告 添付写真

秋の実りを楽しむ② 自然物で造形活動(ネイチャーアート)

